

大台ヶ原・大杉谷地域における連携したニホンジカ被害対策について ～各機関が連携したニホンジカの捕獲～

近畿中国森林管理局 三重森林管理署 地域林政調整官 役田 学
環境省近畿地方環境事務所 吉野管理官事務所
自然保護官補佐(アクティブ・レンジャー) 小川 遙

1 課題を取り上げた背景

大台ヶ原・大杉谷地域では、ニホンジカ（以下「シカ」という。）による植生等への過度の影響により植生が衰退し、環境省、林野庁がそれぞれ生息密度の低減に向けた捕獲を進めています。この結果、生息密度は低減してきていますが、いまだ満足な植生の回復は確認されていると言いがたい状況です。

そのため、今後、大台ヶ原・大杉谷地域において、より効果的・効率的に捕獲を進めていくための一つの方策として、生息密度の高い地域や季節移動を考慮した捕獲を行っていくことが必要となっています。

2 経過

これまで、環境省、林野庁はシカの生息状況調査を行ってきており、所管地をまたぐシカの生息地が確認されています。特に日出ヶ岳^{ひでがだけ}や正木峠^{まさき}、正木ヶ原^{おわせつし}、尾鷲辻^{とうくらやま}～堂倉山^{ちやうしがわ}周辺で生息密度が高いことが分かっています。春期には、三重県の銚子川^{ちやうしがわ}周辺（紀北町）から堂倉山や尾鷲辻^{ちやうしがわ}周辺を通り、大台ヶ原に移動（積雪期は逆ルートで移動）する個体がいることが分かっています。これまで、環境省は所管地、林野庁は国有林で捕獲を進めてきましたが、より効果的に捕獲を進めるためには、両省庁が連携し、環境省所管地と国有林等にまたがり、密度の高い地域や移動ルート上で連携して捕獲を進めることが望ましいとの結論に至り、さら

に隣接する村有林を管理する奈良県上北山村とも連携し、シカの捕獲を進めることとしました。

3 実行結果

平成 29 年 6 月 30 日に三者でシカ対策連携協定を締結し、捕獲圧をかけてこれなかった堂倉山周辺エリアで各機関が連携した捕獲事業を、同じ委託先に発注することで同じ目標での実施、事業期間を合わせることによる捕獲効率の向上、捕獲個体を三重県内の特別保護地区外に移動することが困難なことから、連携者の運搬車使用、奈良県側の処分先の共同使用が可能となるなどメリットが発揮されています。

4 考察

平成 29 年度から 2 年間の連携した捕獲の取組により、効果や課題、検討が必要な事項も浮かび上がり、平成 31 年度は、わな設置密度が高いことによる捕獲効率低下のため範囲の拡張、調査結果の分析に基づく行動パターンの把握による春先での捕獲の実施、誘因状況による捕獲休止期間の設置など取組ました。

今後も、将来に渡って当該地域の適切な管理をしていくために、関係機関のさらなる連携強化及び対策の実施に努めていく必要があります。

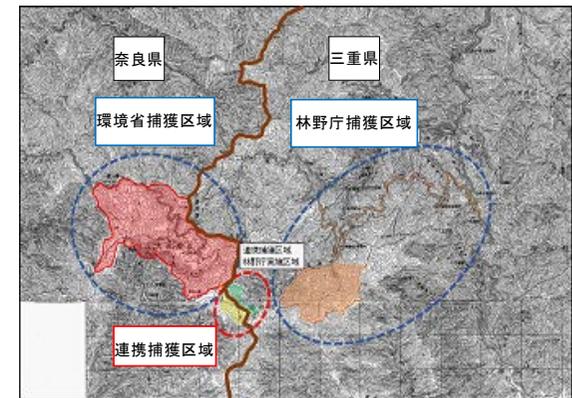


図1 各機関の捕獲区域位置図